

遊煩・惱林

春の お彼岸会法要

左記のとおり春季彼岸会法要を

はご連絡ください。

お勤めいたします。皆様お誘いあ
わせの上賑々しく御参詣下さい

尚十八日（土）、十九日（日）、二十日

（月）、の3日間は、お寺にお参りの

方はご参詣になつた順にお勤め致し
ますので予約は不要です。その他の
日は住職、副住職共に外に出ている
ことが多いので必ず時間の予約をお
願いいたします。

衆僧総供養読経

法話 西原祐治師 西方寺住職

おとき（婦人会の皆様の手作りの

お食事です）

三月十七日から二十三日までお彼岸

です。この間お寺もしくはご自宅で
の読經供養を致します。ご希望の方

お彼岸のたびに書きますが、彼岸はほとけ様の国を表しますそしてその仏国は私たちを包み込む世界です。私たちが生きているこの世界があつて、どこかよそにほとけ様の世界が在るのではありません。浄土真宗のご本尊は阿弥陀如来です。阿弥陀とはアミターバ、アミタユースというインドの古語で「限りないのち」、「さえぎるものなくなく届く光」という意味です。私たちは時間も空間も境を作つて認識します。昨日、今日、何時間、何分、地球、国家、町、私とあなた、全てに限りを作ります。その方が物事を理解し易いし生きやすいから。しかしながら仏教では私たちは「縁」によつてここに在ると考えます。多くの「縁」が複雑に絡み合つてこの私を成り立たしめていると考えるので。よつて私というのは際限の無い「縁」の集積で、ここからここまでが私、ここからがあなたという風に分けることは本来できないものであると考えます。しかし人間にとつて際限を見つけ

しますそしてその仏国は私たちを包み込む世界です。私たちが生きているこの世界があつて、どこかよそにほとけ様の世界が在るのではありません。浄土真宗のご本尊は阿弥陀如来です。阿弥陀とはアミターバ、アミタユースというインドの古語で「限りないのち」、「さえぎるものなくなく届く光」という意味です。私たちは時間も

分断していくことは生物として生きていくうえで有利なことであつたようです。余談ですが一部の類人猿を除き「自分」と「他者」を認識できる動物はいないようです。

私とあなた、こつちのグループとあつちのグループ。この国とあの国。医学も腑分け（ひとつながらでぐちやぐちやした内臓を、心臓、肝臓、すい臓、胃等分ける）によつて発展し病気を治してきました。また分子生物学や量子力学のように極限まで細分化し観測不能のところまで論理を構築し発展しました。正に見限り、見極めることがによって文明は発展し、その恩恵を被り私たちの生活は成り立っています。まあ、そんな大きな、いや小さな壁もあれば垣根も作りますし、開けっぴろげつても何だか落ち着かない。壁や屏を作つて安心しています。しかしそこに本当の安心はあるのでしょうか。例えばここ数十年、夜は戸締りをして寝ます。私が子供の頃、冬は

ともかく夏場はあちこち開け放つて風通しよくして寝てました。「今は物騒だから」確かに。でも昭和二十年代、三十年代の日本はもっと物騒だったはずです。戸締りをして安心する元には「不安」があります。私たちが行っているのは物騒という「不安」そのものを解決するのではなく、戸締りによってそれに対処して「安心」しているのではないでしょうか。俗にいう「臭い物に蓋をする」つてやつです。

清風宝樹を吹くときは いつつの音声いだしつ
宮商和して自然なり 清淨勲を礼すべし

親鸞聖人の作られた和讃です。この中に「宮」「商」和してとあります。私は何となく親鸞聖人の時代の「宮」は貴族階級「商」は一般の人々くらいに思い貴賤和してぐらに思つていましたが先年亡くなつた友人の加藤真人さんは、これは雅楽の音階を表していて「和音」の事だと教えて下さいました。確かに前段には「五つの音声」

とあります「和音」はそれ単体だと変に聞こえる音がいくつかの音が重なり合うとともに気持ちの良い音に成ることです。

人類の進歩と調和

たしか1970年の万博のテーマだったと思ひます悲惨な戦争を経験した人々が望んだのは、またその先に実現しようとした未来は「分断」ではなく「調和」だつたのではないかでしょうか。

今、ナショナリズムの台頭とともに私たちの耳に心地よい「日本素晴らしい」「日本人の誇り」なんてことが多く聞こえています。確かに日本良いこととか日本人は優秀だなんて聞くと何となく誇らしく嬉しい。これは日本人だけではなくそれぞれの国の人気が持つ感情でしょう。しかし日本の歴史を尊ぶならば日本人を語るなら明治以降の富国強兵に邁進した「日本」「日本人」だけでなくそれ以前の日本の事も見なければなりません。

実際に發布はされなかつたようですが聖徳太子の作とされる「十七条の憲法」には「和を以て貴しとなす」とあります。政敵もさることながら家族、親族でも殺し合いをしていた時代の人が作った言葉です。そこには「臭い物に蓋をする」対処療法では到底間に合わず、「和」そこにしか真の「安心」が無くそれを希求する悲痛な叫びが聞こえます。

何故ほとけ様の名前に「無量」「無邊」の意味があるのか。これはほとけと私の境が無いこと、私の苦しみ、悲しみ、喜びをほとけ様がそのまま我が事としてと受ける事を表します。「縁」によつて生かされている私たちも本来そあるべきなのでしょう。しかし私たちの「本性」は分別と分断にあります。「私だけが（の）」それは時に安心できる気持ちのいいことです。

「でもそれで本当に安心かい、幸せかい？」
と、ほとけ様は問い合わせていらっしゃいます。

順 正 寺 永 代 納 骨 堂 の ご 案 内

順正寺では平成9年に西東京市のひばりヶ丘浄苑内「順正寺墓所」に永代納骨堂を開基しました。当時「お墓を作つても後を継ぐ人がいないので何とかしてほしい」と云う「相談がいくつかありそれにお答えする為にまた

順正寺寺族代々の墓所として「俱会一処」（みんなひとつころに出会う）の願いのもとに開いたものです。

以来早くも20年が過ぎお墓をめぐる事情もすっかり変わり、永代納骨なさるご家庭も多く、現在空きスペースが少くなり、今後収藏できるご遺骨が、僅かとなりました。

永代納骨堂に「収骨をお考えの方は早めに相談ください。

令掌 住職

「人間だもの」（相田みつを）……そう、人間なんですよ！

わたしたちは、いまのこの便利な状況、生活を当たり前のこととして生きているように思えます。

基本人間は、どんなに素晴らしい状況にあつたとしても、置かれている立場を最上のものと受け止めることができず、またそこに安住することはできない生き物です。

そのおかげで文化、文明は発展し、住みよい、暮らしやすい環境を手に入れることができているのも事実です。

でも、今この住みよい環境を手に入れるのにどれほど多くの涙が流されてきたことでしょう。

昨年末、栃木県での現地研修会に参加してまいりました。「足尾鉱毒事件」について少しだけ聞きかじつてきました。

足尾鉱山から廃棄された鉱毒が渡良瀬川を汚染し、そのため渡良瀬川下流域に住む人々に甚大な被害を与えたというこの公害事件による被害は、未だに収束していないと聞いてきました。

そして、渡良瀬川流域にあつた谷中村を廃村とし、人々を他所へ追いやることによつてできたのが渡良瀬遊水地であることも知りました。

いや、これからそのあたり（鉱毒被害や廃村問題等）について書こうというではありません。

い生活は、繰り返し起こつた多くの人々に犠牲を強いた歴史と現在もまさに流れ続いている人々の涙の上にあるというのは紛れもない事実です。

戦争・足尾鉱毒・水俣病・ダムの建設ラッシュと沈んでいった村々・原子力発電・基地問題等々。昨日まで悲喜こもごもの中でも笑顔で暮らしてきた人々の生活。忘れられない思い出の場所。大事な方の残していくた家や田やお墓。通つて、私たちの暮らしやすい日本は作り上げられているのです。日本の繁栄、明治維新～大正デモクラシー～高度成長を経て、誰か一部の人々がやらかしたことではなく、「わたし」が望み、誰か一部の人々がやらかしたことではなく、「わたし」が望み、容認し、見て見ぬふりをしてきたことなのです。

反省しろとか、痛みを感じろ、なんて言う気はないです。ただ、事実を事実としてみることを大事にしなければならないと思うのです。そこから目をそむけていては、豊かさという仮面の下の顔は、笑顔どころか、悲苦すらない無表情に、自分の本当の顔すらわからなくなつた生活が続くのです。最近、笑顔で街を行く人を見るとホッとします。それだけ、すさんでいるのだとハツとします。

まず、自分は「人間なんだ」というところに立つところから始めましょう。人間は愚かしいのです。欲深いのです。比べてしまふと、差別してしかものを考えられないのです。人間は成長を欲するのです。現状を維持することを望むのも欲です。現状を維持するためには現状維持では済まないのです。変化がないといられないのです。私もそういう「人間」であるのだ、ということを認めが必要だと思うのです。

仏法は気づきの教えです。人間である、凡夫であることに気づき、そこに立つた時に初めて気づくことを注視していく。人間であること忘れないとください。

何故だ！眼が怒つて、口元がにやけてる、肩の線がちつとも柔らかくない、顔が変だ！真っ直ぐ線が引けない。

「なぞつて描くなんて誰でもできるぜ、簡単じやん。」甘かつたです。線は震えるし、太かつたり細すぎたり悪戦苦闘の1時間です。

毎月2回開催している「仏像描くぞう」のことだ。お経のヒーリングミュージック（韓国やタイなどの般若心経）や時にはなつかしのフォークソング、ニューミュージックなどを流しながらお手本をなぞり書きをするのだがこれが思った以上に思い通りに線が引けないのだ。

大好きな「観音菩薩半跏思惟像」も慈悲心も思惟なさつての様にも見えないところが悲しい。未だ初級なのでお手本には目玉が入っていない「俺のせいじゃない目玉がないからだ」自棄を起こして目玉を入れてみる。「違うな」流し目にしてみる「結構いけるかも」ってそれ全然違うし。それでも一番最初に書いたものと比べるとだいぶ良くなってきてはいる。集中しているせいかあつという間の1時間なのだ。

平素、読経以外まとまつた時間集中する機会がない、また些末なことに気が散つて独りでこんな事はできない私にとって、とても楽しい時間だ。ご参加の皆さんもワイワイ話しながら始めるがじきに誰もが集中し静かなゆつたりとした空間に成る。気持ちのいい時間である。ご参加お待ちしてます。

定例行事

聞法会 每月2日夜7時から 現在、鉛筆写経（親鸞和讃）とお話、座談会をやっています

歎異抄を読み聞く会「微妙音」 每月5日午後2時

白色白光の会（婦人会） 每月第2木曜午後1時
お経（正信偈）の練習と法話と茶話会

淨土真宗初めて講座 二月、四月、六月、十月、十二月の第2土曜午後1時より5時まで（参加費 2千円、照久会会員は千円） 講師 聞成寺 佐竹貫裕師

仏像なぞり書き「仏像描くぞう」

第2水曜 夜7時半 月の最終日曜朝9時からやつてます。
参加費三百円（初回のみ別途テキスト代千円）

照久山 慶正寺

177-0021 緑町五丁目仲井町
3-17-4

03-3996-2064